

グルコサミンで心臓血管イベントのリスク低減

変形性膝関節症の治療にグルコサミンが用いられているが、近年、動物実験やヒトでの横断研究において、心臓血管病の予防や死亡率の抑制にグルコサミンが役立つ可能性が示唆されている。そこで本研究では、変形性膝関節症による痛みの軽減のためにグルコサミンを習慣的に使用することが、心臓血管病の予防や死亡率の抑制に関連するかについて前向きコホート研究を実施し検討した。

英国の UK バイオバンクのデータを用い、466,039 例を対象に 2016 年まで追跡した。中央値 7 年の追跡期間中に 10,204 件の心臓血管イベントが発生し、うち 3,060 件は心臓血管病により死亡し、5,745 件の冠動脈疾患イベントおよび 3,263 件の脳卒中が発生した。年齢、性別、BMI、人種、生活習慣、食事摂取、薬剤の使用、他の補助剤の使用などで調整すると、グルコサミンの使用により心臓血管病イベントの発症が有意に低下した（ハザード比 0.85）。また、心臓血管病による死亡のハザード比は 0.78、冠動脈性心疾患の発症のハザード比は 0.82、脳卒中の発症については 0.91 となった。

したがって、変形性膝関節症の痛みに対して習慣的に摂取しているグルコサミンにより、心臓血管イベントのリスクが低減する可能性が示唆された。

出典: British Medical Journal. 2019, May 14; 365: 11628.